

令和3年度第1回

湧別町総合教育会議議事録

令和3年12月10日

開会15時30分 閉会16時30分

湧別町

令和3年度第1回湧別町総合教育会議会議録

- 《出席者》 町長 刈田 智之
教育長 阿部 勉、教育委員 岩佐 雅弘、教育委員 井上 久恵
教育委員 森谷 和洋、教育委員 喜多 友美
- 《欠席者》 なし
- 《出席職員》 教育総務課長 尾山 弘、社会教育課長 坂本 雄二、教育総務課
参事 佐藤 大、社会教育課参事 中島 一之、企画財政課長 因
洋史 教育総務課主幹 佐藤 美貴、教育総務課主幹 大西 久践、
教育総務課主査 廣井 隆志、教育総務課学校教育主査 宍戸 和幸
- 《傍聴人》 なし
- 《協議案件》 協議第1号 小中一貫教育について

尾山 課 長 | ただ今より、令和3年度第1回湧別町総合教育会議を開催いたします。はじめに刈田町長よりご挨拶をお願いいたします。

刈田 町 長 | 今年の全国学力学習状況調査において湧別町内の小中学生が全国平均を超えたと聞いております。また来年以降においても全国平均を超えるように頑張っていたきたいと思っております。それに経費がかかるのであれば町としても応援していきたいと考えております。

湧別の未来を担う子どもたちをどう育てていくかを考えていかなければならないので、現在湧別小・中学校の一体型義務教育学校に向けての整備を進めております。湧別型の新たなシステムをどう作っていくのかを考えながら、これから上湧別地区においても取り組みをしていきたいというのが私の思いとしてございます。

また湧別高校の魅力化、存続対策を含めて色々進めてきましたが、なかなか結果がでないというのが実情になってございます。ただ存続するだけではなく、2間口確保した中での方策を今後教育委員の皆さんと協議しながら進めていきたいと思っておりますし、本日は小中一貫教育という議題にもなっておりますので議論させていただきたいと思っておりますので、今日はよろしくをお願いいたします。

阿部 教育長 | 現在、教育委員会におきましては2校目の義務教育学校を令和5年4月開校に向けて進めているところであります。学力向上につきましては先ほど町長からも話がありましたように、一定の成果を得ているところであります。子どもたち一人ひとりが自ら課題を見つけ、お互いに学びあうシステムが構築出来ているから結果につながったのかなと感じております。さらにまた、事業改善、指導力向上に向けたいわゆる湧別町型学校力の向上事業を積極的に取り組んできておりま

阿部教育長 す。このことも併せて考えますと、今回の学力学習状況調査の結果につながったと確信しております、

社会教育事業につきましては、令和4年度で計画を終了する社会教育中期計画であります。来年度1年かけて第3次湧別町社会教育中期計画を策定すべく準備をスタートさせております。一昨日北海道大学の先生を招聘しながら策定にかかる手順等々をご教授いただいたところであり、このあと会議でさらに意見交換が深まれば幸いに存じます。

本日の協議案件につきましては小中一貫教育についてであります。町長の政策的公約の中に町内の小・中学校の義務教育学校化が挙げられております。この点についても意見交換をしながら町長と教育委員会共通認識のもと、湧別町の子どもの健全な育成のためにしっかり議論し、取り組んでいきたいと考えておりますので、ご協力をお願い申し上げます。よろしくお願いたします。

刈田町長 これより、令和3年度第1回湧別町総合教育会議、協議事項を進めて参ります。

協議第1号 小中一貫教育について事務局より説明をお願いいたします。

尾山課長 小中一貫教育の現状でございますが、本町を湧別地区、芭露地区、上湧別地区と3つのブロックのイメージの中でそれぞれ小・中学校連携しながら、あるいはすでに施設一体型の義務教育が行われております。

芭露地区はすでに芭露学園ということで、施設一体型の義務教育学校で9年間の学びを提供してございます。こちらについては平成30年4月に開校済みでございます。

湧別地区には現状湧別小学校と湧別中学校の2つがございます。こちらについても施設一体型義務教育学校を令和5年に開校すべく、すでに準備を着手してございます。校舎の建設工事は着手済みでございますし、義務教育学校の開設準備委員会も学校名、校歌、校章を検討すべく会議に着手しております。教職員の中では9年間でどのような子どもを育てていくかという部分でカリキュラムの検討も開始しております。粗々出来つつあります。

上湧別地区になりますが、現在上湧別地区には小学校が4つ、中学校が1つあります。こちらについても方針としては上湧別地区に施設一体型義務教育学校の開設を進めていきたいという考えの方針を持っています。今ある5つの学校はそれぞれ廃止され、一つの新しい義務教育学校を設置するという方向性を持って検討を進めていきたい

と考えているところであります。色々と準備が進んでおりますが、地域住民との懇談を行いながら詳細なプラン作りを開始していきたいと考えております。

義務教育学校の成果と課題とありますが、義務教育学校化施設一体型にすることによっていろいろなメリットが生まれます。成果としては中1ギャップの解消、9年間の連続性を生かした小中一貫教育などの様々な指導上のメリットが生まれてきます。広い人間間交流による情操教育面で非常に良いものがあるということ、最後に教職員組織も1つの組織の中で動いていきますので、こちらのメリットも大きいと言うことが芭露学園のこれまでの経過をみると押さえられているところあります。

一方課題としてありますのは、小学校6年生のリーダー性の発揮の場が少ない、1～9年生全体での学校行事はどうあるべきか、その課題、教職員の意識、小学校しか経験のない、あるいは中学校の先生だった方が9年間の学びの中で意識改革が非常に重要になってきていると思われませんが、すでに湧別地区の義務教育学校、芭露学園の中でも解決すべく一定の方策は見出しておりますので、クリアできる課題と捉えております。

今後についての方針であります。芭露地区につきましては芭露学園を継続して小中一貫教育を行っていきます。湧別地区につきましては令和5年4月に新たな義務教育学校を開校いたします。具体的には湧別小学校、湧別中学校は廃止して、新たに義務教育学校を設置することとあります。湧別中学校を大規模改修しながら前期棟の増築で校舎を作っていくことにしております。児童生徒数は200名規模となり、北海道内では大きな義務教育学校となります。さらに地域や保護者を含めた開設準備委員会も開始、設置してございまして、校名等選定作業の開始もしております。9年間で育つ子どもの姿、素案ではありますが「多様な人々と協働的に学び続ける姿」を軸にして検討中でありまして。特に総合的な学習の中では「ゆうべつ学」というものを創設しながら歴史、産業、資源をしっかりと理解した子ども、そして協調性もある、そのような子どもを9年間で育てていきたいと考えております。

上湧別地区でございまして。芭露地区、湧別地区同様に施設一体型義務教育学校にしていきたいと思っております。検討開始時期でございまして湧別地区の義務教育学校が開設された後、令和5年以降としておりましたが、今回新町長の意向もございまして、この時期は令和5年以降ではなく、検討の開始時期は早めることで作業を開始しております。具体的には来年1月の中旬から上湧別地区の4つの小学校の学区ごとに地域との懇談会を開催して、第1歩を踏み出していきたいと考えております。

- 刈田町長 を耳にします。決まってはいいないけれど一番新しいし、機能的にはいいのかなと思います。
- 阿部教育長 上湧別中学校に4つの小学校を1つにして設置するというスケジュールは全く決まっていません。今、この4つの小学校が一つの動きを取って今年は修学旅行など合同で行っています。他には学校運営協議会を合同で行ってはどうかなどの話もあります。色々なところで話をさせていただいて、教育委員会として地域で話を聞く。中学校を核として前期棟を湧別地区のように増築することが本当にいいのか、あるいはオープン教室がどうなるか、スクールバスの問題等いろいろな質問が出ると思います。義務教育学校の基本的な部分を説明し、意見を伺い、集約し、提案させていただいて、町と協議し、全体の説明という流れになっていくのかなと思っています。
- 富美・開盛の校舎の今後の使い方をどうするかという質問は出てくると思います。今後、色々な意見を聞きながら、今すぐ結論を出さなければいけない会議ではないと思っているので、幅広く聞いてこようと思っています。
- 刈田町長 今、芭露学園の複式学級はどうなっていますか。
- 尾山課長 前期、後期とも複式学級ですが、体制の中でそれぞれ授業をしています。
- 刈田町長 義務教育学校は今増えてきていますが、教育関係者的にはどうなんでしょうか。
- 佐藤室長 9年間の学びという連続したカリキュラムを作成する上では望ましいですが、まだ具体的に成果・反省が出されていないので、今後は湧別地区がモデルとなって発信していく役割になるのではないかと思います。
- 刈田町長 今年、学力学習状況調査で全国平均を超えたということですが、義務教育学校になるとより伸びる可能性はありますか。
- 佐藤室長 それは言えると思います。小・中の接続ですね。9年間の義務教育学校を作ると小学校と中学校の壁をいかに無くすかというところがネックになりまして、先生方の意識もそうですし、授業スタイルも今は中学校になると講義調が多いので、それを打破するために北大の守屋先生と連携しながら子どもたちが主体的に学べる環境を中学校の中に取り入れ、そうすることによって学力もおのずと向上していくと

- 佐藤室長 思っています。全国を少し上回るではなく、飛び抜けて学力が高い地域になっていくのではないかという思いを持って取り組んでいます。
- 刈田町長 主体的に学べるというのはどういうことですか。
- 佐藤室長 先生方が教え込むということではなく、今求められていることは子どもたちの学ぶ力を育てることが1番です。先生が教え込むのではなく、子どもたちがグループやペアになったりしながらわからないことは聞いたり、友だち同士で解決していく。今の社会をみてみますと、会社という組織に入った時に誰かが教えるではなく、チームやグループになって問題を解決していき、利益や成果を挙げるというシステムです。それを学校の中に取り入れていきたいと思っています。北大の学びの共同体という理念で男女2名ずつ4人グループにし、わからないところは友だち同士聞き合いながらみんな落ちこぼれることなく学びを保証してあげる、そういう考え方を湧別地区に取り入れていきたいと思っています。
- 刈田町長 SDGsですね。高い理念のもとに進めていただければと思います。
- 佐藤室長 欲をいうとオホーツクの中心的な推進地域にしていきたいです。
- 刈田町長 湧別モデルで進めていっていただけたらと思います。
- 阿部教育長 学校の特徴を活かして得意分野を町内全部に発信していくということを今やっています。全体の底上げをするという意味では理想的なシステムなのかなと思っています。こういう理念のもとにやればオホーツク全体が上がるのではないかと思っています。
- 学校の校長、教頭だけが思いを強く持つのではなく、全体で共通認識を持ち、今、上湧別地区が取り組もうとしている義務教育学校化で一つにまとめていこうという勉強会、研修会がスタートしています。いつ開校するかは未定ですが、今から取り組んでいます。
- 刈田町長 そのほか、何かご意見ありますでしょうか。よろしいでしょうか。
- (「はい」の声あり)
- 刈田町長 協議第1号につきましては終わらせていただきます。
- 本日の総合教育会議に付議された議案につきましては全て終了い

刈田町長 たしました。
そのほか、せっかくの機会ですので、本町の教育行政に関わることで何かありませんか。

阿部教育長 事務的な話になりますが、これから地域に入って懇談が始まりますが、それを集約した中で教育委員の皆さんや町長と議論し方向性を導き出していきますが、大体方向性が出た時には町長の出番はあるということでしょうか。

刈田町長 はい。

阿部教育長 説明会は令和4年度に入ってからがいいですか。まとめ次第でいいですか。

刈田町長 いいです。
地域から学校がなくなると淋しく感じるのかもしれませんが。それは、行政がお手伝いをし、将来的には若い人たちに役割を担っていただきたい。学校を施設として残さなければならないのかなと思っています。(学校を)簡単に無くすのではなく、地域で運動会や学芸会をやっていたり。
(総合教育会議は)教育全般についてと言うことで、社会教育にお願いしていることが、コロナによって2年間十分にできていないので小さなものでもいいから町民が豊かになるように何かできないか来年に向けて検討してほしいとお願いしています。社会教育の中で子育て教育などに力を入れていただきたいなと思っています。
義務教育学校が出来たら、湧別地区の通級はどうなりますか。

佐藤室長 継続です。これからの相談にはなりますが、上湧別地区に義務教育学校が出来た場合については今湧別小学校に3名配置しているところを2名にし、1名の先生を上湧別に配置します。

刈田町長 学校教育と社会教育というのは教育の両輪なんだろうね。

森谷委員 合併の時にいつも言っている体験談ですが、私は小学生の時に志撫子小学校が廃校になり芭露小学校と合併になった1期生です。中学校は上湧別中学校へ通ったんですが、50年前を思い出してみると子どもの心では同級生4人くらいだった時は先生とも近くて身近な授業でした。まず4人しかいないので手を挙げることもなく、その場で立って読むこともない。次に芭露小学校へ行った時には20数名になり、自己アピールしなければいけないという経験をしました。相手を

- 森谷委員 認めるということを知り、上湧別中学校へ行った時には3クラスで自分をアピールしなければ相手にも認めてもらえないし、相手も尊重しなければならぬ。少人数はいいが、大人数になると色々な選択ができるようになる。相手を尊重することも勉強したり。小中一貫にはいろいろと議論があるんでしょうが、少人数もいいが、同級生がたくさんいることによって自我を作り出すにはいいのかなという感じは受けます。今回の統合については少ない人数よりは多い人数の方が選べる選択肢があるのかなと思います。自分の子どもの頃のことを思い出してなんとなく気が付いたなということがありました。
- 学校訪問した時にタブレット授業を見学して、子どもたちが生き生きして勉強しやすい環境になったのはプラスですが、子どもとのコミュニケーションや道徳的なこととのバランスを自分の中で葛藤しています。
- 町長さんはタブレットと子どもたちの付き合い方をどう思っていますか。
- 刈田町長 タブレットは全教科で使うわけではないですよ。道徳は当然タブレットを使っていますよ。
- 佐藤室長 タブレットは毎回使うことはないですが、使っています。タブレットはノートや鉛筆などと同じ道具として使っています。
- 森谷委員 僕らは道具だと思っているんですが、孫は道具というより体の一部のように使っているんで、そういう世代が生まれてきているので、そのすごさに緊張感があるというか。
- 刈田町長 便利なものですが、それに依存してしまうとどこかで物が無い時にどうするかという考える力をどうつけるのかと。本来的なタブレットがないことも前提にした教育もやっているんですか。
- 佐藤室長 タブレットと普通の授業を1時間の授業の中で使い分けています。タブレットだけではなく、ノートや鉛筆を使うことを織り交ぜながらやっていきたいと思います。ICT教育推進委員会の中でもモラルも大切だと話しもしています。どうやって使うかというのは使っちゃダメとか、これを検索しちゃダメのダメダメではなく、子どもたち自ら判断できるようなモラル教育をこれからしていかななくてはいけない。学校によってもどういう使い方をさせるかで変わってくると思うので、今後ICT推進委員会の中で検討しながら統一するところは統一し、各学校に任せることについては自分たちの状況を見据えてICTの活用のモラル教育をやっていきたいと思います。

- 尾 山 課 長 学校の中でのタブレットの件ですが、アナログな部分はそのまま残す、という話しなんです、生徒指導連絡会議というものを行っておりまして、その中での話しですが、タブレットを配り半年が経ちました。使っていくことによって学校の中では規制はできるんですが、委員さんがおっしゃられるとおり、家庭に帰ってからゲーム世代のお父さんお母さんがずーっとゲームをしている、暴力ゲーム的なものやっていて、そこのお子さんは学校のタブレットではなく、お父さんのタブレットで危険なゲームを一緒にする、そして学校に登校してから危険なゲームの話をするというのが見えてきています。学校の中の制約ではなく、幼児段階、小さいうちから触っているか疑問を感じるという先生はいます。今委員さんの心配している部分は共通の認識として教員の中でも感じています。
- 刈 田 町 長 時代時代の流れの中で新しい技術が発展すれば色々出てくるので、学校の中ではマニュアルを作るなどしてやっていかなければしょうがないんでしょうね。難しいですよ。
- 阿 部 教 育 長 どの時代もそんなことありましたよね。電話も線がつながっていない子機を持って部屋に行き長電話して夜中に家をでるとか。進化すれば必ずそういうことが生じます。時代はそれを乗り越えてきているんですね。
- 岩 佐 委 員 技術はどんどん変わっていくので、今の子どもたちが自分たちの世代になると同じようなことを言うという想像ができるし、それに対応できるノウハウを若い時から学ぶというのは大事だと思います。
- 刈 田 町 長 G I G Aスクール構想の中で進めている I C Tの部分で、昔のように授業は黒板に書いたものをノートに写すのが授業でしたが、その時間をどうやって省略するかとなるとボタン1つでタブレットにデータが流れてくるんですから、その時間を授業に使えるんだらうということも含めて、これから子どもが将来に向かって国際化グローバルな世界に向かっていけるような勉強をしていかなければいけないんだらうし、外に出ても戻ってきけるような町を作らなければいけないんでしょうね。
- 学 習 指 導 要 領 で 5、6 年 生 に 専 科 の 先 生 が 入 る と い う の は い つ で し た か。
- 佐 藤 室 長 学 習 指 導 要 領 に は 入 っ て い な い で す。文 科 省 の 施 策 の 問 題 で す。

- 刈田町長 北海道の新聞に、小規模校は複数でやると載っていましたね。
- 佐藤室長 今は職員の加配というのは定数プラス1人、2人多く配置するんですが、今はチームティーチングで分けて習熟度で配置していたのを、国語・算数の教科担任制で配置するという方針転換をしているんです。
- 刈田町長 湧別は先を行ってるんですね。
- 佐藤室長 湧別地区もまだ統合していませんが、来年度から前倒しで小学校の先生に技術の免許を持っている先生がいるので、中学校の技術の授業をしてもらおう。中学校の英語の先生を6年生の外国語の授業を持たせるという計画でいます。
- 阿部教育長 それが、上手くできるかということですね。
- 刈田町長 義務教育学校になればすべて解決するということですよ。
- 佐藤室長 そうですね。
- 刈田町長 他に何かないでしょうか。よろしいでしょうか。
- (「はい」の声あり)
- 刈田町長 以上で、令和3年度第1回湧別町総合教育会議を閉会いたします。